

観自在

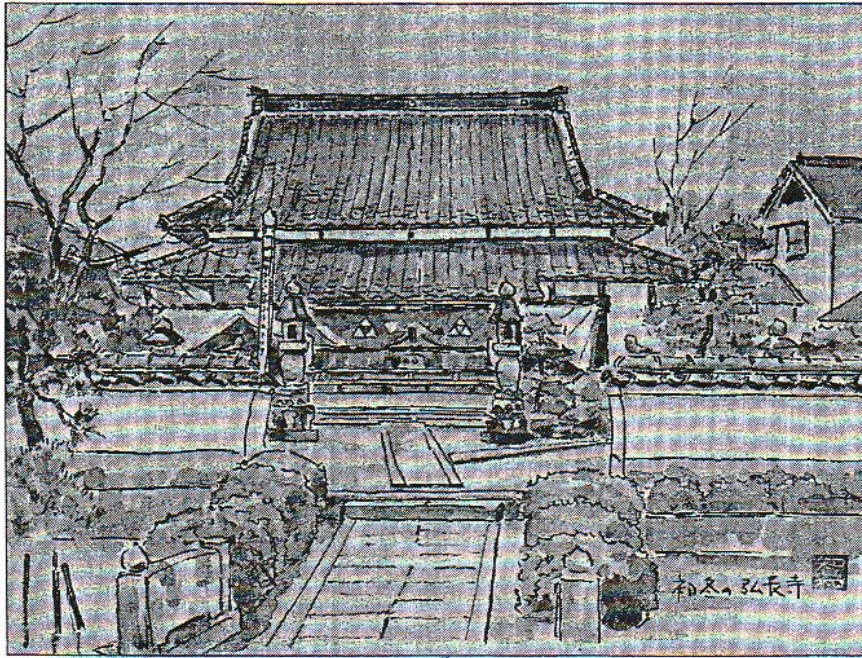
阿弥陀様の奇跡

弘長寺住職 森田裕光

弘長寺寺報
第十号
平成十七年
一月

明けましておめでとーございます。

本年がお檀家皆様にとつて、又お寺にとつても素晴らし
い年になりますよう祈念いたします。



初冬の弘長寺

大阪府富田林市 稲荷智和氏 贈呈

阿弥陀堂改築に際し、皆様より多額のご喜捨を賜りま
したこと、まずもつて衷心より感謝御礼申し上げます。
誠にありがとうございました。

阿弥陀様は昨年九月九日、修復の為名古屋に向かわれ
ました。おそらく弘長寺に鎮座されて以来初めて腰
を上げられたと思ひます。その時から度肝を抜かれるよ
うな展開に、夢を見ているような思いでござ
いました。

井上教授から県の重文級との評価を得て、新聞にも大
きく発表され、胎内銘と経筒の発見から異例のスピード
で暮れの十二月二十七日には町役場の応接室にて、町
有文化財指定の証書を受け取りました。
何とか平成十六年の年内に宍道町最後の追加指定を、
という住職の「十六という数字」へのこだわりが通り、
安堵致しました。

町教育委員会や文化財調査委員方への働きかけが早かつ
たこと、護持会会長はじめ役員方の後押しが強力だったこ
と、そして何よりも阿弥陀様の奇跡のお力があつたこと
と感謝しております。

十二月七日上棟式の日、阿弥陀様のまさにその奇跡の
お力を、まざまざと身をもつて体験致しました。
朝から雨が降り続き、開始一時間前の午後二時には大
雨が降っていました。
一同餅まきを控えて憂鬱な気分になっており、住職も
衣が濡れに始まるのを覚悟しておりました。
とところが開始直前、阿弥陀様はピタリと雨を止めてお
しまひになりました。
これを奇跡と呼びました。何と申しましょう。

阿弥陀様に対して、知らなかつたこととは言え、今ま
で何気なしに拝んでいたことを申し訳なく思っています。
今後は寺檀和合・信仰の重要なシンボルとして、お寺
や檀家を見守つていただきたいと切に念ずる次第です。

合掌

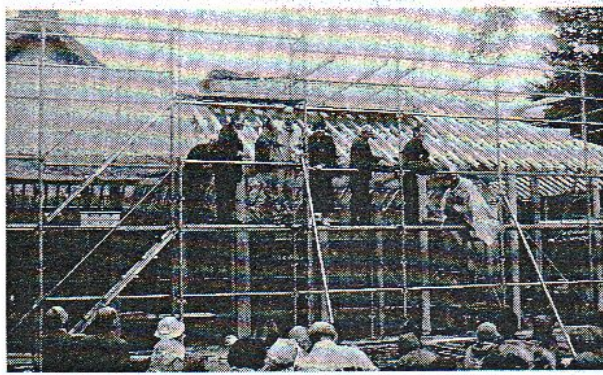
新しい年を迎えて

弘長寺護持会
会長 武田民三

明けましてお目どうごうございます。

檀家の皆様には、ご一家お揃いにて新しい年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は皆さまの総意により、念願の阿弥陀堂建立が着工できましたことは、誠に同慶のいたりであります。



上棟式餅まき風景

尚また、阿弥陀尊像からは造立当時(天文三年)の貴重な文字資料や、更には仏像の胎内に納めら

れた経筒(法華経二十八品を写経した巻物八巻が納められた)が発見され、文化財として大きなセンセーションを巻き起こしていることは、既にご案内の通りであります。

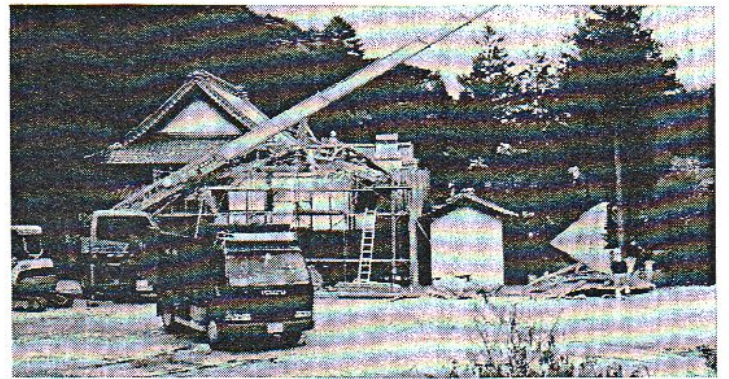
阿弥陀堂再建に当たっては檀家の皆さまから篤きお志しのご寄進を賜り、その額は老千万円を超えました。

檀信徒の皆さまに、あらためて感謝を申し上げます。

ところで、私たちの宗門では「お釈迦さまの教えに巡り会い、その教えに共鳴し、自分たちの生活の指針とし、実践する」ことを教義として示されています。

その中心となるお経(法華経)の「方便品」には、お釈迦さまが「我れ、もと誓願を立てて一切の衆をして、吾が如く、等しくして異なることなからしめんと欲せり。我が昔願うところの如き、今既に満足せり。」と弟子達に説法されたことが書かれています。(日本教文社刊「法華経解釈」参照)

「吾が如く」というのは、自分(お釈迦さま)は如来であり無量



阿弥陀堂解体作業

人間は仏陀であり無量寿の生命を持った仏であるぞ、と断言しておられるんですね。

このように「法華経」は真にありがたいお経であることが解ります。

裕光方丈さまは、「新しくなった阿弥陀堂では、坐禅の修行や梅花講の練習などを行う。」とおっしゃっています。

私たちも、この阿弥陀堂を礼拝道場として、また「公界の道場」たらしめるべく大いに活用し、修行してまいりたいものと思えます。

おわりに本年が檀家の皆さまの実り多い年でありますようご祈念を申し上げます。
ありがとうございます。

合掌

寿の生命(いのち)「如来寿量品」の自我偈に、お釈迦さまの無限生命が説かれて(いのち)いる)を持つているのだが、私(お釈迦さま)は一切の人類をして、その「無限の生命の如来」と等しくして異なることなからしめんと欲していたが、その願いが今成就したぞ、と宣言され、そのことに舍利弗(しゃりほつ)という弟子が非常に感動して「吾れ真に仏の子なり」と言っ流涙を流して喜んだと書かれています。

そのように、人間の本当の姿(実相)には仏の生命がそれぞれに宿っている。



阿弥陀堂改築の経過報告

弘長寺護持会

副会長 坂本研次

阿弥陀堂改築にあたり、さきに趣意書によって浄財のご寄進を申し上げましたところ、多くの方々から篤い志のこもった多額のご支納を賜りましたことに深くお礼申し上げます。

さて、阿弥陀堂は十月二十五日の着工以来順調に改築工事が進み、去る十二月七日午後三時から上棟式を挙行させていただきました。生憎午前中から降り出した雨は止む気配がなく心配していました。

ところで阿弥陀如来のご慈悲でしようか、定刻の三時には不思議にもピタリと止み、お集まりいただいたお檀家多数の皆様方にも雨の心配もなく撒餅を楽しんでいただきました。滞りなく了えることができました。

以後改築工事は、お檀家の大工さんたちの献身的な力と巧の技によって順調に進みつつあります。阿弥陀尊像の修復につい

ては、十一月七日付で皆様におりであります。



地鎮祭の様

十月二十四日、教育委員会の稲田氏と、護持会からは坂本・五百川両副会長計三名で、修復を依頼してある名古屋の仏師を訪れ、修復の方法等について打ち合わせを行いました。

その結果、(1)背中にある穴の中から文字群が見られ、解体すればもっと詳しい事実が判明できる。(2)解体して修復すれば堅固で耐久性も特段に良くなる。という結論に達し、検討の上業者に解体修復を依頼し、十一月五日の住職と稲田氏の調査へと進みま

した。以来、現在までの状況は十一月七日付の報告のおりです。町では早速文化財保護委員会が開かれ、町の文化財として前会一致で指定が決まりました。文化財としての評価も高く、これからの郷土史解明にも大きく寄与することとなるでしょう。

尊像の胎内に納められていた経筒には「十羅刹女」と刻まれているのが見え、十羅刹女は鬼子母神と共に法華經の受持者を護持する(よる)といわれています。この経筒に納められている法華經が如何に尊貴であるかが解ります。そして胎内には二百人以上の人々の名が記されている阿弥陀尊像は、古くから一般の人たちの信仰の的として今日まで続いていきます。

このたびは阿弥陀尊像の修復と御堂の改築が同時に進行し、阿弥陀堂にはお檀家各門累代の位牌堂を兼ね、祖先供養崇拜に最も相

応しい御堂となります。

また、坐禅会や研修にも活用が期待されます。阿弥陀尊像の由来と教典についての研究は、これからの課題として取り組むことといたします。

改築事業の今後の予定は、尊像搬入が二月十八日、完成三月三十一日、落慶法要四月十七日と計画しています。

立派な御堂完成にご期待いただき、一層のご協力をお願い申し上げます。

合掌

名古屋で修復中の阿弥陀様
(写真は名古屋の仏師)



特別寄稿

弘長寺阿弥陀如来座像

について

宍道町教育委員会
生涯学習推進室長

稲田 信

十月二十日ごろだった。会議を終えて職場に帰ると、坂本研次さんから文化財関係で至急弘長寺へ来てもらいたい旨の電話連絡があったとのこと。

弘長寺に向くと、「岩屋寺」「小松衆」などの夥しい文字が書き込まれた阿弥陀如来像の内部の写真を見せられ、お寺に集まっておられた武田民三護持会長はじめ護持会の役員方から、詳しい調査をと迫られた。

中世史研究者の井上寛司先生に資料を送るとともに、弘長寺から二度にわたって名古屋へ調査団が派遣されることとなり、私も同行させていただくこととなった。

仏像の解体修理の結果、体内から仏像造立の経緯と、造立に関わったと思われる夥しい数の人物名が判明したのである。

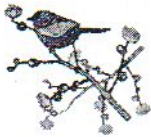
今回の大発見のポイントを記せば次のようになると思っている。

① 仏像は天文3年(1534年)に本願善海小聖道了が宍道氏松千代・寅寿のために造立し、仏像造立に関わった多くの人物が名前を連ねたことが判明したが、記述された夥しい文字史料は今後の地域史研究のために貴重な歴史資料であること

② 仏像造立年代と仏師の阿闍梨大僧都秀英は観音寺に住まわしていたことなどが確認され、実態の明らかではない戦国期の地方仏師や仏教文化の解明に役立つこと

③ 享禄二年、来海住の道順が小聖徳蔵をして、全国(六十六箇国)を納経のために廻国させた事実が明らかになるとともに、経筒が仏像体内に納められ、極めて保存状態のよい状態で残されたこと

以上の点などから、弘長寺阿弥陀如来座像は貴重な歴史資料であり、仏像彫刻である。また、仏像造立に関わった多



くの人物は、命の連鎖ということを考えれば、来待地区の皆さんの直接の祖先である可能性は非常に高い。

約五百年前の戦国の世に、衆生の救済、子孫の繁栄など、来待地区の人々の想いを込めてこの阿弥陀如来像は出来上がった。

平成の市町村合併という一つの区切りを目前にして、この仏像は今の私たちに何を語りかけてくれるのだろうか。

法事のころ

愛しき人の行き去りて 流す涙の満ち引きの

満ちて引かざる初七日 菩提祈りし七日ごと

七度経りて忌み明けに 光を放つ中有の身

今旅立たんみほとけの 生命の故郷仏国土

百日過ぎなば悲しみの なみだの河も引き潮の

早や迎えしは一周忌 同胞集いて手を合せ

供養の念いはげまして 手向ける香のほの白く

暑さ寒さの季は巡り 時は至れり三回忌

七周過ぎて十三と 数え数えて過ぎゆきぬ

幾年月の重ね来て 仏となりて笑むひとの

形見となりし此身こそ 有り難く思うこの日なり

お知らせ

お願い

●阿弥陀様は二月七日にお帰りの予定でしたが、解体作業等で遅れが出て、二月十八日に延期となりました。

●落慶法要は予定通り四月十七日(日)午前十時より行います。法要と井上先生の講演を予定しております。午後より祝宴となります。詳細ご案内は近くなりましたらお知らせ致します。

●阿弥陀堂改築に併せ、寺族・森田久美子名義の土地(約一反三畝)を駐車場として法人に正式に喜捨致しました。《阿弥陀堂後ろと地藏堂後ろ二カ所》

●法人に喜捨した一部、秋葉堂の横の土地に、法人の総廟墓地を造る予定です。

●梅花講に新メンバー六人(寺族一人)が加わりました。チーム名は「雪組」です。これで「花組」「星組」「月組」「雪組」と四組そろいぶみで宝塚並になりました。

●盆棚経は、小松地区の途中から始めます。池田・浜地区で留守だったお宅も参ります。息子の大裕が一人で廻れるようになり、スピードアップしました。

恐らくまだ心もとない様子でしようが、温かい目で見守ってやって下さい。上棟式も学校を早退させて一緒に読経させました。



●阿弥陀堂が完成しましたら、盆・正月のお供えは(お餅等)ご自分でお供えしていただきます。我が家の仏壇と同じ感覚を持ち、一回でも多くお参りしていただきたいのです。阿弥陀堂の先祖代々位牌の周りを整えてお盆やお彼岸、正月の準備をしていただきたくと思います。(中折りや盆はいり口に用意しておきます)

●毎月第一木曜日朝六時より坐禅会を行っております。是非お出かけ下さい。初回より、皆勤の方が一人おられます。しかもクリスチャンです。四十分坐禅の後、読経お勤めをしてからお茶を飲みますが、その宗教談議が楽しいですよ。参加してみられませんか。

住職の独り言

台風の災害で大きな被害が出たと思つていたから、被災された。驚いたのもつかの間、年末にはインド洋スマトラ沖地震で十五万人が亡くなつた。所詮人間がどうあがいても、自然にはかなわないうていうような気がする。

神戸の震災時には、曹洞宗青年会のメンバーとして長田地区へ、即座に炊き出しボランティアに出かけた。米のイラク攻撃の際には、一人平和記念公園に出かけて反戦を訴える坐禅をした。災には、忙しさに身を縛らなれた。忙しさに身を縛らなれた。遠くまで、支援助金送付以外何もできなかった。

何もできない者ができることとは何かというのを真剣に考えた。「祈り」であろうとの結論に達した。病の床について全く動けない状況であっても、人は祈ることができるのだ。それは宗教における最も

基本の姿でもあるし、他を祈る利他行：すなわち立派な布施行ではなからうか。祈れば、必ずみ仏様經由で相手に思いが届くと私は信ずる。

比べることなどとてもできないことであるが、つきつめて行けば懸命なる祈りの行は、み仏様の慈悲行に相通ずるような気がする。「祈る形」という詩があります。

『本堂の前にペタンと坐つて手を合わせ、ひたすら祈るお婆さんよあなたはおじいさんの病氣平癒を祈るのかそれとも孫の受験の成功をお願いするのかあるいはまた、子供達に手をかけさせないよう眠るようにあちらに行けることを念じているのかそれは私にはわからないが、お婆さんそのように一心に祈るあなた心の形が私には仏の姿に見えてくるのです』

祈る修行をもっと積みたい。



あゝ！ 勘違い

弘長寺が曹洞宗に
変わったのは
十七世紀の終わりでした

過去帳などの入っていた
ボックス奥に、歴代住職の
示寂年(死亡年)を見つけた
のはつい先日のことです。

弘長寺の御開山は、本寺
である松江の洞光寺の二世
様「天麟星壺大和尚」です
が、この方は実質的に松江
の洞光寺様を開いたお方で
あります。

この方が亡くなったのは
永正十二年十一月七日。
(一五一五年)これは洞光
寺様から伺って知っています
した。
あの阿弥陀尊像が造られ
る二十年前ですから当然室
町時代。

弘長寺二世様は應山榮恩
大和尚。
実際に弘長寺が曹洞宗に
なつて初めての住職です。

(事実上の御開山)
今回この方の示寂年月日
が判明しました。元禄十三
年一月二日。
元禄という文字を見てビツ
クリ仰天です。
西暦になおすと丁度一七
〇〇年になります。
江戸五代將軍綱吉の時代
に亡くなっておられる。
ということはずね。



あれ、開山と二世様の
間には一八〇年もの開きが
あるということなんです。

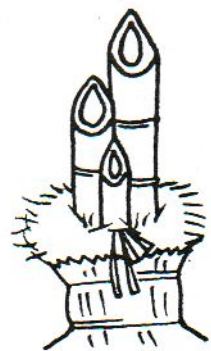
あゝ何たる誤解だったで
しょう。

私は今まで室町時代に亡
くなつた御開山(勸請開山
といひます)を拝請したの
だから、当然この頃(室町
時代)に曹洞宗に変わった
とばかり思いこんでいまし
た。
それにしても世代数が少
ないな、とは感じておりま

弘長寺歴代住職示寂年月日

世代	戒名	示寂年月日	西暦
開山	天麟星壺大和尚	永正 12年11月 7日	1515年
二世	應山榮恩大和尚	元禄 13年 1月 2日	1700年
三世	雪貞祖賢大和尚	延享 3年 2月11日	1746年
四世	愚峰祖純大和尚	宝歴 3年 5月17日	1753年
五世	珠山元明大和尚	明和 4年 7月21日	1767年
六世	東岳祖関大和尚	宝歴 8年 7月28日	1758年
七世中興	梵應泰音大和尚	文化 7年 3月10日	1810年
八世	泰山大安大和尚	文化 2年 4月13日	1805年
九世	玄峰泰関大和尚	文政 7年 5月13日	1824年
十世	玉岩泰堂大和尚	天保 11年 2月13日	1840年
十一世	棟林泰梁大和尚	安政 3年 9月13日	1856年
十二世	篤翁泰惇大和尚	明治 12年 3月26日	1880年
十三世	法山泰雲大和尚	慶応 4年 6月28日	1868年
十四世	鷲峰泰仙大和尚	明治 42年 3月23日	1910年
十五世再中	正宗泰覚大和尚	昭和 3年10月20日	1928年
十六世	泰拙庸徳大和尚	昭和 50年12月16日	1975年

したけれども。
ですから、思いこみ程こ
わいものはないということ
がよくわかりました。
結果的には、弘長寺は江
戸時代に曹洞宗に変わつて
から三百年間、過去帳もそ
の時代のものからそのまま
残っていて、伽藍の焼失も



全く無かつた、ということ
です。



※お気づきになられたら
お寺にご連絡下さい

三百回忌 (宝永三年)

戒名	地区	俗名	続柄
梅岩妙香女	久戸		八之輔 姉
心林覚性士	小松	九之輔	
閑叟智徹信士			
宗因禅男	久戸	長三郎	
幻霜童女	弘長寺		
月叟休心	久戸	市之輔	

大本山總持寺参拝と 横浜観光・甲府恵林寺・武田神社 富士五合目・石和温泉 の旅

◎期 日 平成17年5月23日(月)~5月25日(水)<2泊3日>

◎会 費 84,000円(本山供養料・本山写真代・観光費含みます)

◎募集人員 150名[定員になり次第締切りますので、お早めにお申し込み下さい。]

◎申込方法 申込金5,000円を添えて、各菩提寺へ4月1日までに申し込み下さい。

日次	期 日	行 程
1	5月23日 (月)	出雲空港→→<JAL-1662>→羽田空港 == <首都高・横羽線> == 8:00出発 9:20着 10:00頃発 【現地貸切バス利用】 == 横浜大世界 == 中華街(昼食) == マリントワ == 【中国テーマパーク】 == 氷川丸 == <首都高> == 生麦IC == == 大本山總持寺(泊 = 三傘閣)研修会 15:30~
2	5月24日 (火)	本山 == 八王子 == <中央自動車道> == 勝沼IC == 9:00頃出発 == 恵林寺【武田信玄菩提寺】(昼食・参拝) == 武田神社 == 【宝物殿】 ワイン工場見学 == 石和温泉(泊) 17:30頃着
3	5月25日 (水)	石和温泉 == 宝石庭園(信玄の里) == <富士スバルライン> == 8:30頃発 == 富士五合目(昼食) == <東富士五湖道路> == 御殿場IC == == 東京IC == 羽田空港 →→ <JL-1671> →→ 出雲空港 18:40発 20:00着